

# 大雨・台風！ どうなる？ どうする？

災害に備えるためには、被害の様子を具体的にイメージすることが大切です。  
風水害が起こったら、区内にはどのような被害が出るでしょうか。



## 1 風水害の危険を知ろう

### 1 風水害の危険

区では過去に、集中豪雨や台風による洪水や高潮が発生しました。近年は、アスファルト舗装が増えたことで、豪雨時に大量の雨水が一気に河川や下水道に流れ込み、その結果、河川が氾濫したり、雨水が路上に吹き出したる「都市型水害」が発生しています。

#### 基本



- ✓ ハザードマップで浸水や土砂災害の危険性のある地域が分かる
- ✓ 停電や断水等、生活に様々な影響が発生する可能性もある

### 大雨による浸水



浸水ハザードマップ  
(『品川区防災地図』)

大雨による浸水の範囲と深さは、『品川区防災地図』のハザードマップを見ることで分かります。

- ①「浸水ハザードマップ」  
目黒川、立会川の流域等で想定される最大規模の雨が降った場合の浸水の範囲と深さが分かります。
- ②「多摩川洪水ハザードマップ」  
多摩川流域で想定される最大規模の雨が降り、多摩川が決壊した場合の浸水の範囲と深さ、浸水継続時間が分かります。

#### POINT

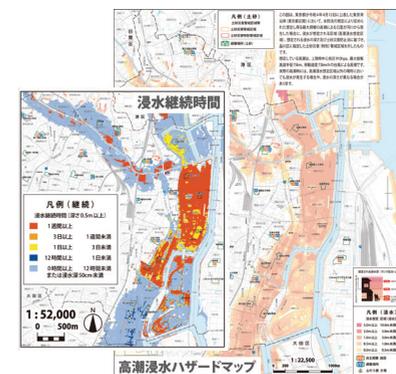


ハザードマップは、特定の条件で計算された想定を示すものであり、必ずしもマップどおりの浸水が起こるわけではありません。状況に応じた行動をこころがけてください。

### 高潮による浸水

高潮は、台風等による強い低気圧と強風の影響で海面の水位が上昇する現象です。満潮と重なると、大きな災害になるおそれがあります。

防災地図の「高潮浸水ハザードマップ」では、想定最大規模の台風で想定される浸水区域と浸水深、浸水継続時間を確認できます。



高潮浸水ハザードマップ (『品川区防災地図』)

### 浸水による被害や影響

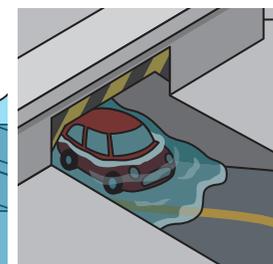
避難が遅れたことで、浸水で命を失うリスクがあるだけでなく、地上にあふれた水は私たちの生活に様々な影響を与えます。



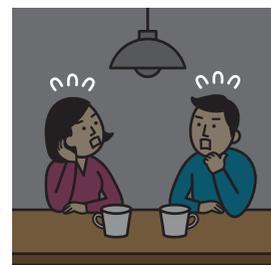
家屋浸水



地下街の浸水



アンダーパスの浸水



停電



断水



通信障害

1 風水害の危険を知ろう

2 大雨・台風が接近! そのときどうする?

3 風水害に備えよう

## 土砂災害(がけ崩れ)

土砂災害は、大雨や地震等が引き金となり、山やがけが崩れ、崩れた土砂が雨水や川の水と混じって流れてきたりすることで人命が奪われたり、建物が押しつぶされたりします。

防災地図の「土砂災害ハザードマップ」では、警戒区域を確認できます。

土砂災害は圧倒的な破壊力を持っているため危険な時は警戒区域から避難し、命を守る行動をとります。



土砂災害ハザードマップ  
『品川区防災地図』



### 土砂災害(特別)警戒区域

がけ崩れ等が発生した場合に住民の生命等に危害が生ずるおそれがある区域は、危険の程度に応じて、「土砂災害特別警戒区域」(通称:レッドゾーン)と「土砂災害警戒区域」(通称:イエローゾーン)の2種類があります。

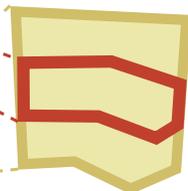
区にはがけ崩れ(急傾斜地の崩壊)の危険区域があり、特に、北品川、東五反田、上大崎に数多く分布しています。大雨の時は、注意が必要です。

#### 土砂災害特別警戒区域(レッドゾーン)

土砂災害により建築物に破壊が生じ、住民等の生命または身体に著しい危害が生ずるおそれがあると認められる区域

#### 土砂災害警戒区域(イエローゾーン)

土砂災害により住民等の生命または身体に危害が生ずるおそれがあると認められる区域



#### ジージョクんと学ぼう! 『品川区防災地図』



『品川区防災地図』はこちらの二次元コードから確認できます。また、ハザードマップの見方や使い方等をわかりやすく紹介している動画のリンクを掲載しています。

## 自宅の被害のおそれは? 防災地図で確認 **ワーク**

ハザードマップで、自宅周辺の風水害の危険を調べましょう。

浸水 ハザードマップ	浸水可能性:	あり	・	なし
	浸水深:	m以上		m未満
多摩川洪水 ハザードマップ	浸水可能性:	あり	・	なし
	浸水深:	m以上		m未満
	浸水継続時間:	12時間未満		※多摩川洪水の区内浸水継続時間は12時間未満です。
高潮浸水 ハザードマップ	浸水可能性:	あり	・	なし
	浸水深:	m以上		m未満
	浸水継続時間:		以上	
土砂災害 ハザードマップ	土砂災害特別警戒区域の指定:	あり	・	なし
	土砂災害警戒区域の指定:	あり	・	なし

▶ 避難の必要や避難先の確認はP.72・73へ

### POINT



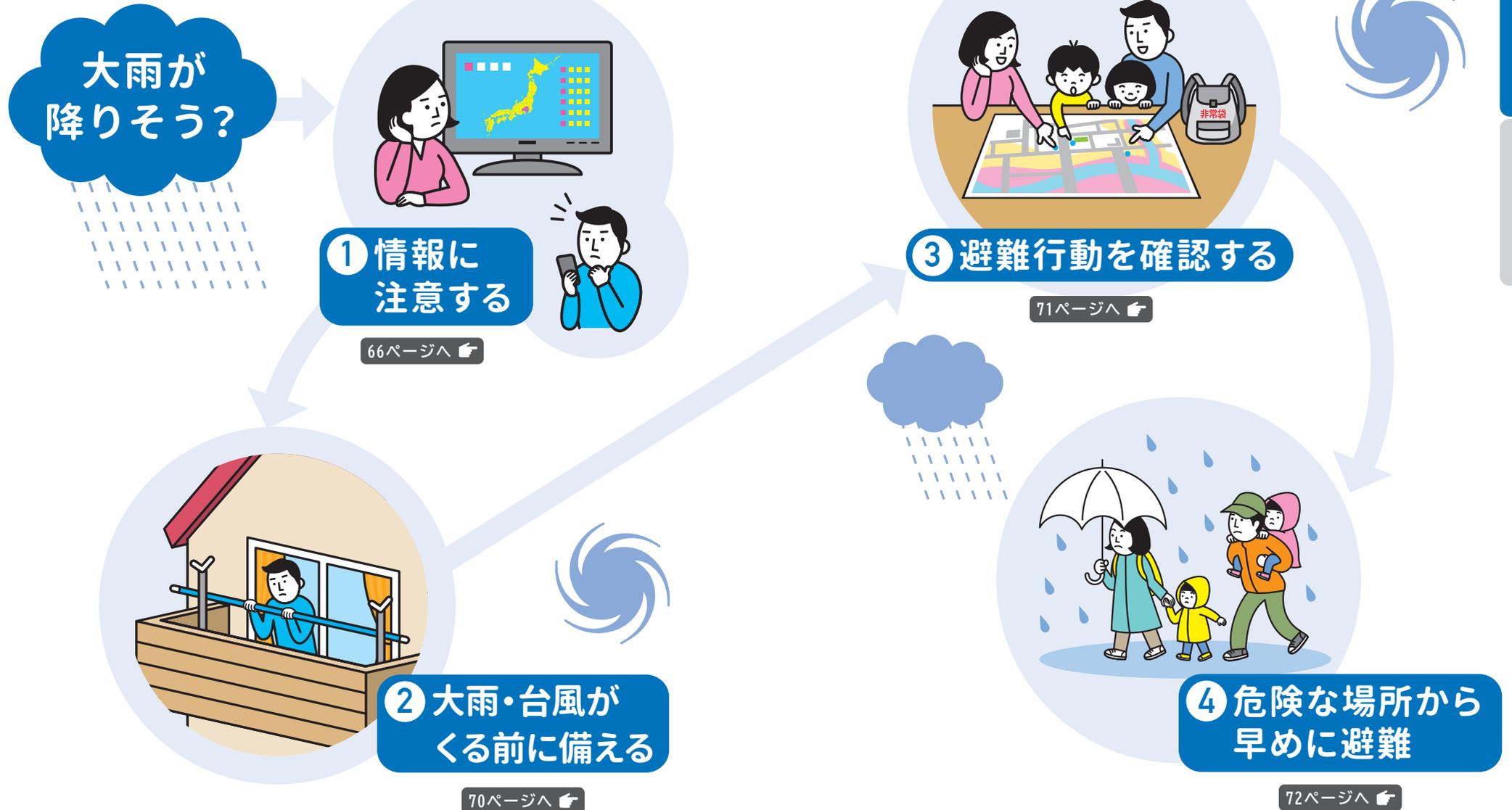
#### 浸水深の目安(凡例)

浸水深(浸水時の地面から水面までの高さ)の値から、自宅がどこまで浸水する可能性があるのかを確認しましょう。避難の必要や避難先の判断に役立ちます。



# 大雨・台風が接近! そのときどうする?

風水害は、事前に予測できる災害です。気象情報、台風に関する情報、避難に関する情報等に注意して、備えましょう。



1 風水害の危険を知ろう

2 大雨・台風が接近!  
そのときどうする?

3 風水害に備えよう

## 2 大雨・台風が接近! そのときどうする?

### 1 情報に注意する

風水害は、気象庁が発表する情報等であらかじめ危険を予測することができるため、浸水や土砂災害の危険から身を守る時間を確保することができます。

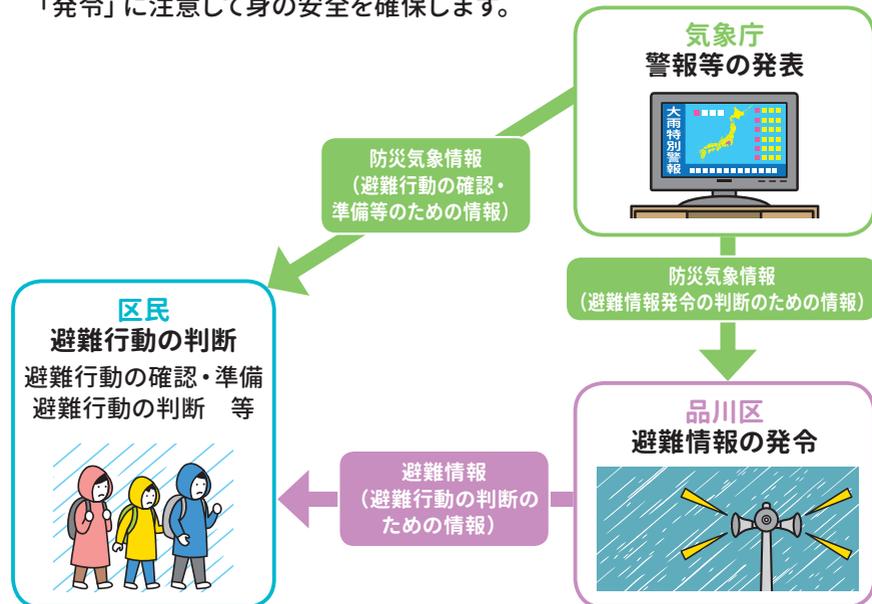
**基本**

- ✓ 気象庁が発表する情報に注意する
- ✓ 常に最新の情報を入手する
- ✓ 区から発令される「避難情報」に注意し、避難のタイミングに活かす

#### 情報収集・把握

▶ 情報の入手方法はP.22・23へ

天候が悪化しそうとき気象庁は「防災気象情報」を発表し、これを受けて区は、区民へ避難を促す避難情報を発令します。気象庁の「発表」、区の「発令」に注意して身の安全を確保します。



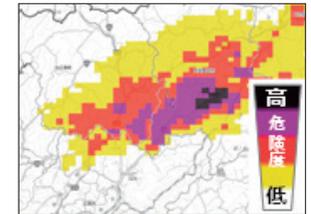
避難情報の発令と防災気象情報の関係

#### 災害発生危険を知らせる情報(気象庁が発表)

- 注意報、警報、特別警報  
気象庁は、災害が発生するおそれがあるときには、防災気象情報を発表します。

情報の種類	発表のタイミング	種類
高 危険度 低	特別警報	重大な災害の起こるおそれが著しく高まっているとき 大雨(土砂災害、浸水害)、暴風、暴風雪、大雪、波浪、高潮
	警報	重大な災害が起こるおそれのあるとき 大雨(土砂災害、浸水害)、洪水、暴風、暴風雪、大雪、波浪、高潮
	注意報	災害が起こるおそれのあるとき 大雨、洪水、強風、高潮、雷等16種類

- 土砂災害警戒情報  
大雨警報が発表されている中で、土砂災害の危険が高まったときに発表されます。土砂災害のおそれがある地域の方が避難を開始する目安です。
- 記録的短時間大雨情報  
大雨警報が発表されているときに、土砂災害や洪水の発生につながるような、まれにしか観測しない雨量であることを知らせるために発表する情報です。
- キキクル  
気象庁のホームページから、大雨による災害発生危険度の高まりを、5段階で色分けしたマップでリアルタイムで知ることができます。紫は危険度が高いことを示しています。



浸水キキクル

#### 区からの防災情報

- 品川区の気象情報  
区内の気象情報を区のホームページで確認できます。また、目黒川(2か所)、立会川(7か所)に設置している河川監視カメラの映像を見ることがもできます。状況を確認の際にご活用ください。
- 避難情報の発令  
区が発令する避難情報は、避難が必要な地域へ防災行政無線による放送や、しなメール、区のSNS等で周知されます。



品川区  
気象情報

### 避難情報 (区が発令)

災害の危険度に応じて住民の方々がとるべき行動を5段階の「警戒レベル」で表し、レベル3より区が避難情報を発令します。

● 警戒レベル5 「緊急安全確保」

災害が発生または発生直前の命が危険な状況です。避難場所等への移動が危険な場合、直ちに垂直避難等、安全を確保する行動をとります。

● 警戒レベル4 「避難指示」

危険な場所にいる人は全員、速やかに避難してください。安全な場所にいる人は、避難場所等に行く必要はありません。

● 警戒レベル3 「高齢者等避難」

避難に時間がかかる高齢の人や障害のある人、避難を支援する人等は危険な場所から安全な場所へ避難しましょう。

避難情報は、順番どおりに出されるわけではありません。

避難情報が発令されていない場合でも危険な場合があるため、気象庁の発表等を踏まえ、状況に応じた避難行動をとりましょう。

### 区の避難施設

風水害の避難場所は、区が開設を行います。突然の豪雨等では開設が間に合わない場合もあるため、必ず開設状況を確認してから向かいましょう。開設後は、どこの施設でも避難することができます。

- 自主避難施設 (台風等で不安な方を受け入れる)  
台風の直撃等に際し、自宅滞在に不安を感じる方を受け入れる施設です。台風の規模等に応じて、区が開設を決定します。
- 避難場所 (災害の危険を回避する)  
避難情報の発令等に際し、危険を回避するために一時的に避難者を受け入れる場所です。区立学校等が事前に指定され、避難情報の発令等に合わせて区が開設を決定します。



区が設置している避難場所

POINT



区は、目黒川氾濫、多摩川氾濫、高潮浸水、土砂災害の避難情報を避難が必要な地域に発令し、避難場所を開設します。



避難情報等 (警戒レベル)				気象情報 (警戒レベル相当情報) 等	
警戒レベル	状況	避難情報	住民がとるべき行動	気象情報等	避難施設の開設 区の避難場所準備・開設
5	災害発生 または切迫	緊急安全確保 (区が発令)	命の危険 直ちに安全確保! (垂直避難等)	・大雨特別警報 ・氾濫発生情報 ・高潮氾濫発生情報	・氾濫発生水位 ・区へ浸水が到達
~~~~~(警戒レベル4 までに 必ず避難!)~~~~~					
4	災害の おそれ高い	避難指示 (区が発令)	危険な場所から 全員避難	・土砂災害警戒情報 ・高潮特別警報 ・高潮警報	・氾濫危険情報 ・氾濫危険水位 ・多摩川の堤防が決壊
3	災害のおそれ あり	高齢者等避難 (区が発令)	高齢者や障害のある 方は危険な場所から 避難	・大雨警報 (土砂災害) ・洪水警報	・高潮注意報 ※1 ・氾濫警戒情報
2	気象状況 悪化		ハザードマップを見て 自らの行動を 確認する	・大雨注意報 ・洪水注意報	・高潮注意報 ※2 ・氾濫注意情報
1	今後気象状況 悪化のおそれ		天気予報等を見て 災害への心構えを 高める	・早期注意情報 (警報級の可能性)	・自主避難施設

※1 高潮警報に切り替える可能性が高い注意報  
 ※2 ※1以外の高潮注意報  
 ※3 目黒川、多摩川氾濫は警戒レベル4避難指示から発令

## 2 大雨・台風がくる前に備える

気象情報等に注意しながら、状況が悪化する前に、早めに準備しましょう。

### 基本



- ☑ 雨や風が強まる前に、家の周りの危険なものを確認・整備して、被害を未然に防ぐ
- ☑ 停電、断水、浸水等が発生したときのために備える

### 自宅の安全対策

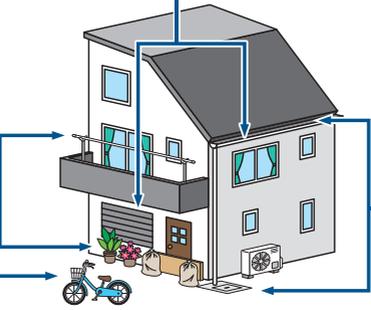
#### 家の周りの確認・整備

☐ バランダや庭等にある植木鉢や物干し台等を屋内へ入れる

☐ 自転車やバイクは屋内へ入れる

☐ 雨戸等を閉め、窓ガラスを守る  
カーテンを閉め、ガラスの飛散を防ぐ

☐ 排水溝や雨どいにある落ち葉等を取り除き、できるだけ水はけをよくする



### POINT



区では、自由に利用できる浸水防止用の土のうを用意しています。設置場所は区のホームページから確認できます。



水防用土のう置場一覧

#### 家の中の備え

停電・断水・浸水等に備えましょう。

【停電】 懐中電灯、予備の電池、スマホのバッテリーを準備する。

【断水】 飲みものを確保する。浴槽に水を張る等して生活用水を確保する。

【浸水】 トイレ、洗濯機の排水口に水のうを置いて逆流を防ぐ。



▶ 備えについてはP.50~55へ

## 3 避難行動を確認する

家族構成や住んでいる地域によって災害時の行動やタイミングは異なります。いざという時に速やかに避難できるよう、避難行動を確認し、準備しましょう。

### 基本



- ☑ 危険の程度に合わせて、とるべき避難行動を確認する
- ☑ 避難に備えて非常持出品等を準備する
- ☑ 不安なときは、自主避難施設へ早めに避難する

### 避難行動の確認・準備

- 『品川区防災地図』で、自宅の浸水や土砂災害の可能性や、危険の程度を確認する

▶ 危険の確認についてはP.60~63へ

- 避難時に最低限持ち出すものをリュックにつめる。家族特有のものも忘れずに

▶ 非常持出品についてはP.48・49へ

- 危険がある場合、避難するタイミング・避難先・安全な避難経路を確認する

※浸水と土砂災害とは適切な避難行動は異なるので注意する

▶ 避難行動についてはP.72~77へ

- 危険性が高まった場合は安全な地域に住む親戚・知人へ避難してもよいかを確認する



### 「自主避難施設」へ早めに避難

区では、台風の規模等をもとに必要なに応じて、避難情報の発令前に「自主避難施設」を開設します。開設状況や開設時刻は区のホームページやSNS等を通じて広報するので、避難に時間がかかる、自宅に一人でいるのは心細い等、不安を感じるときは、早めに避難しましょう。



## 4 危険な場所から早めに避難

区から「避難情報」が発令された場合、または周りの状況から危険が迫っていると判断される場合は、危険な場所からの避難を開始します。

### 基本



- ✓ 区が発令する「避難情報」で、避難を決める
- ✓ 暴風時や夜間等で避難しにくくなる前に、早めに避難する
- ✓ 危険だと感じたら、自らの判断で避難する

### 避難先を決める

災害発生のリスクのある危険な場所から離れ、安全な場所へ移動する「立退き避難」が考えられます。また、避難場所等への移動がかえって危険な場合等は、上階へ移動する垂直避難を行います。状況に応じた移動をするようにしましょう。避難先は、下図の4つの避難先が考えられます。



### 区の避難場所に行くことだけが避難ではありません!

#### < 風水害 4つの避難先 >

区が開設する避難場所・  
自主避難施設へ立退き避難

安全な親戚・知人宅へ  
立退き避難

安全なホテル・旅館へ  
立退き避難

#### 屋内安全確保

「3つの条件」が確認できれば、浸水の危険があっても自宅にとどまり安全を確保することも可能

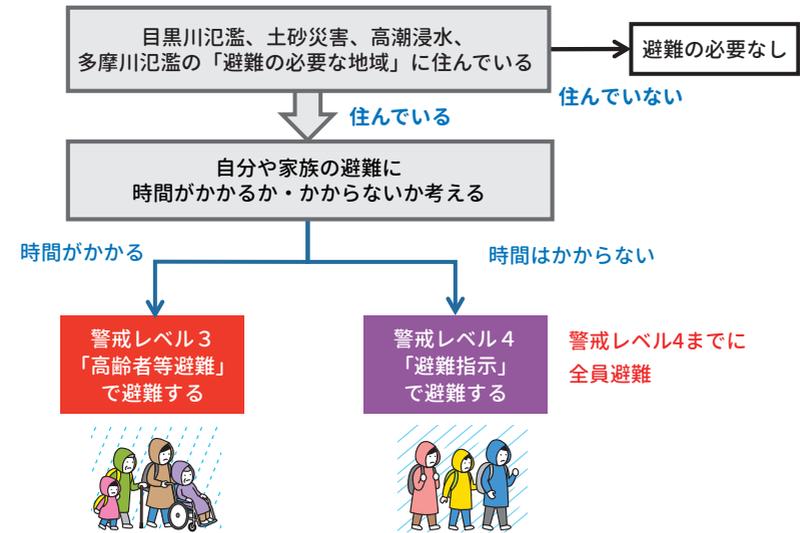
1. 洪水時に家屋が頑丈で流出・倒壊等のおそれがない
2. 浸水深より居室は高い
3. 水がひくまで我慢でき、食べもの・飲みもの等の備えが十分

※土砂災害の危険がある区域では立退き避難が原則

### 避難の要否とタイミングを判断

▶ 警戒レベルはP.68へ

区から発令される避難情報から、「避難の必要」と「避難するタイミング」を判断します。ただし、急激な天候の悪化により危険だと感じたら自らの判断で躊躇せず避難しましょう。



### 被災者の声

## こうやってうまく避難しました (平成30年7月豪雨災害)

「毎年のように台風が来るし、防災に対してどのようにしたらいいか家族で話をするじゃないですか。ここは避難所があっても避難所への道が冠水してしまうんです。そうしたら早い行動をするしかないですね。」

(60代男性2人家族)

「心臓病、足も悪い、糖尿病、高血圧で通院中です。以前から、今度何かあったら避難しなきゃいけないと思っていました。自主避難して皆さんに迷惑をかけなかったことが良かったなと思っているんですよ。」

(70代女性一人暮らし)

出典：広島県「私たちはなぜうまく避難できないのだろう」

## 安全に避難する

激しい風雨の中での避難行動は危険です。安全な避難行動をとりましょう。

### 早めの避難

- 浸水する前に、早めに避難
- 逃げ遅れないよう隣近所で声をかけ合い、早めに避難
- 自力で避難するのが難しい人に声をかけ、浸水前に一緒に避難
- 車で移動するときは浸水前に行く（浸水でエンジンがかからなくなる危険）

### 河川等に近づかない

- 河川や水路等に近づくと、風にあおられたりして転落する危険
- アンダーパスは通らない

### 無理な避難はしない

- ひざ程度の浸水で歩行困難
- 流れる水の中の移動は、足元がすくわれ危険
- 水面下は障害物が見えづらく危険
- 強風の中での避難も危険



### 動きやすい服装

- 動きやすい服装
- 荷物はリュックで最低限のものだけ
- 長靴は厳禁（水が入ると重くなり、動きにくくなる）
- 長い棒を頼りに移動



### 避難に遅れたら

- 屋外へ移動するのが危険、緊急安全確保が発令された等、安全な避難ができない時には、冷静に状況を判断し、最善の行動を選択をする
- 土砂災害の場合は、直ちに、少しでも崖から離れた部屋に退避したり、近所の頑丈な建物に緊急的に移動して命を守る
- 洪水等や高潮の場合、直ちに、自宅の最上階等、少しでも浸水しにくい高い場所に移動したり、自宅よりも高くて頑丈な近所の建物へ緊急的に移動する

## いろいろな避難を考える

一人ひとりの体や心の状態や特性に合わせた避難を行いましょう。介護が必要で自力の避難が難しい、ペットを飼っている等、様々な事情が考えられます。避難のタイミング、場所、方法、持参するもの等を事前に考えておきましょう。

### 自力での避難が難しい方

- 家族と一緒に早めに避難する
- 隣近所等、地域の方の力を借りて早めに避難する
- 安全な上階に垂直避難または浸水しない上層階に留まる

### 介護の必要な方

- 日頃から利用している介護施設のショートステイを利用する
- 安全な親戚や知人の家に避難する
- 安全な上階に垂直避難または浸水しない上層階に留まる

### 一人だと不安な方

- 安全な親戚や知人の家に行く
- 早期に区が開設する「自主避難施設」へ避難する

### ペットがいる方

- ペットに慣れている親戚、知人宅に避難する
- 区の避難場所へ行く場合にはケージ、フード、ペットシート、薬等必要なものはすべて持参する

POINT



区の避難場所では、飼い主とペットは別々の部屋で過ごします。

### 避難しなくても自分は大丈夫だと思う心の先入観

人は予期しない事態にあったときに、「大したことはない」と落ち着こうとする心の機能（正常性バイアス）があり、逃げ遅れてしまう原因になってしまいます。

一方、つつい他人と同じ行動をとってしまう心理（同調バイアス）もあります。「隣近所の人々が避難しないから大丈夫だろう」と、周囲の人の様子をうかがっているうちに避難が遅れることになります。逆に率先して避難する人がいると、多くの人を避難に導くこともできます。

心の特性を理解し、適切な避難行動をとりましょう。



### 3 風水害に備えよう

## 1 日頃からの備え

自宅の風水害の危険を踏まえ、日頃から備えておきましょう。

#### 基本



- 家全体を点検し、排水溝等が詰まらないようにする
- 自宅が浸水する可能性があれば、土のう等を準備する
- 非常持出品を準備する

#### 家全体の点検

建物の点検とともに、周りにある風に飛ばされそうなものは固定するか、屋内に片付けましょう。ベランダの排水溝や側溝を清掃し、浸水対策をしましょう。



#### マイ・タイムラインの作成

大雨・台風が接近したときに、「いつ」「何をするのか」を整理した避難計画をつくっておくと、急な判断に迫られるときに役立ちます。右ページで、かんたんマイ・タイムラインを作成しましょう。都ではより詳細な避難計画「東京マイ・タイムライン」を公表しています。

東京マイ・タイムライン



#### 浸水防止

浸水する低い土地の場合は、「土のう」や「水のう」等を準備しておきましょう。特に水のうは、水道水や風呂の残り湯でもつくれ、人手が少なくても準備しやすく便利です。また、防水板等の設置も有効です。



▶ 防水板等の助成金ありP.95へ

#### 非常持出品の準備

非常持出品は、風水害でも役立ちます。懐中電灯、携帯ラジオ、常備薬、非常食、飲みもの、貴重品（現金）等を準備して、すぐに持ち出せるようにしておきましょう。

▶ 非常持出品についてはP.49へ



### かんたんマイ・タイムライン ワーク

風水害時に自分がとるべき行動にチェックしましょう。

#### ワーク①

P63の結果、自宅に災害の危険があるかどうかをチェックしてください。

P.63の結果 ▶ 自宅に災害の危険がありますか?

チェック  なし  
 ↓  
 チェック  あり

情報に注意し  
安全な自宅に留まる

#### ワーク②

①の結果が「あり」の場合、自分が避難するタイミングが警戒レベル3なのか警戒レベル4なのかをチェックしてください。

